

令和5年度岡山県立中学校及び岡山県立中等教育学校入学者選抜

適性検査結果の概要

1 学校別受検状況

学 校 名	募集定員 (a)	志願者数	受検者数 (b)	受検倍率 (b) / (a)	合格者数
岡 山 操 山 中 学 校	120 (120)	345 (369)	341 (364)	2.8 (3.0)	120 (120)
倉 敷 天 城 中 学 校	120 (120)	326 (333)	323 (329)	2.7 (2.7)	120 (120)
津 山 中 学 校	80 (80)	148 (151)	147 (150)	1.8 (1.9)	80 (80)
岡山大安寺中等教育学校	160 (160)	480 (514)	473 (500)	3.0 (3.1)	160 (160)
計	480 (480)	1,299 (1,367)	1,284 (1,343)	2.7 (2.8)	480 (480)

( ) は令和4年度

2 適性検査Ⅰ及びⅡの全体最高、最低、平均点(100点法換算)

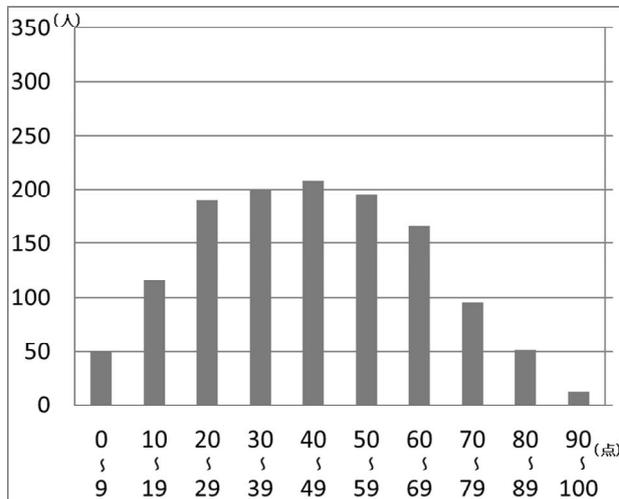
	R 5			R 4	R 3
	最高点	最低点	平均点	平均点	平均点
適性検査Ⅰ	100	0	43.9	53.2	45.1
適性検査Ⅱ	94	0	52.6	54.5	40.5

(適性検査Ⅰ：身のまわりの事象や自然の現象等を題材としたもの)

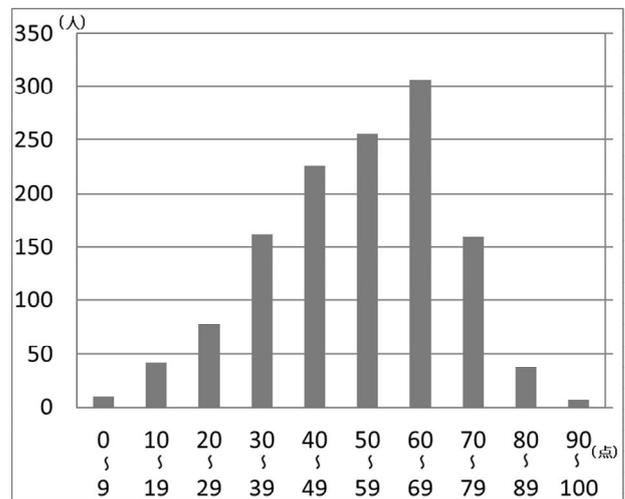
(適性検査Ⅱ：日常生活や社会的事象に関する文章や資料等を題材としたもの)

3 度数分布

適性検査Ⅰ



適性検査Ⅱ





本冊子は、課題ごとに次のとおり構成されています。

1 適性検査Ⅰ（課題1～3）

出題のねらい

- (1) 課題1 設問(1)～(3)
- (2) 課題2 設問(1)～(3)
- (3) 課題3 設問(1)～(3)
  - (ア) 設問のねらい
  - (イ) 学習指導要領における関連の深い領域・内容
  - (ウ) 応答率
  - (エ) 正答例

2 適性検査Ⅱ（課題1～3）

出題のねらい

- (1) 課題1 設問(1)～(3)
- (2) 課題2 設問
- (3) 課題3 設問(1)～(3)
  - (ア) 設問のねらい
  - (イ) 学習指導要領における関連の深い領域・内容
  - (ウ) 応答率
  - (エ) 正答例（課題2は評価基準）

# 目 次

1 適性検査Ⅰ	
出題のねらい	・・・・・・・・・・ 1
(1) 課題1	
設問(1)	・・・・・・・・・・ 2
設問(2)	・・・・・・・・・・ 3
設問(3)	・・・・・・・・・・ 4
(2) 課題2	
設問(1)	・・・・・・・・・・ 5
設問(2)	・・・・・・・・・・ 6
設問(3)	・・・・・・・・・・ 7
(3) 課題3	
設問(1)	・・・・・・・・・・ 8
設問(2)	・・・・・・・・・・ 9
設問(3)	・・・・・・・・・・ 10
2 適性検査Ⅱ	
出題のねらい	・・・・・・・・・・ 11
(1) 課題1	
設問(1)	・・・・・・・・・・ 11
設問(2)	・・・・・・・・・・ 12
設問(3)	・・・・・・・・・・ 13
(2) 課題2	
設問	・・・・・・・・・・ 14
(3) 課題3	
設問(1)	・・・・・・・・・・ 15
設問(2)	・・・・・・・・・・ 16
設問(3)	・・・・・・・・・・ 17

# 1 適性検査 I

## 出題のねらい

### ア 全般的なねらい

身のまわりの事象や自然の現象等を題材として、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」など、小学校等の教育において身に付けている総合的な力をみる。

### イ 課題ごとのねらい

#### 課題 1

身のまわりの事象における問題解決の過程の中で、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を働かせ、必要な情報を捉え、選択・活用しながら課題を解決する力をみる。

#### 課題 2

科学的な言葉や概念についての理解を基に、自然の事物・現象に関する様々な情報及び観察、実験の結果などについて、その要因や根拠を考察し、説明することができるかをみる。

#### 課題 3

身のまわりの事象について、既習の知識を活用し、図形の計量について考察する力や、数やデータの特徴を読み取り多面的に分析し表現する力をみる。

## (1) 課題 1

太郎さんと花子さんは、〇△クリーンセンターへ見学に行ったときの取材メモをもとに、ごみの処理について話し合っています。取材メモ 1 と取材メモ 2 を見て、次の (1) ~ (3) に答えましょう。

取材メモ1 10月20日 太郎

〈〇△クリーンセンターの特ちょう〉

- ・ごみの焼く処理能力は、1日39トン。
- ・えんとつの高さは100m。ごみをよく燃やす働きがある。
- ・〇△市は、岡山県内でもリサイクルがさかんである。たくさんの資源ごみ（ペットボトル、ビン類など）を回収している。

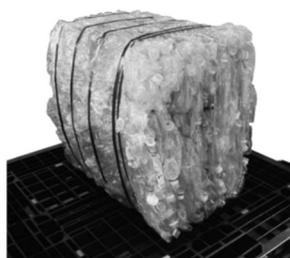
〈ごみの量について〉

- ・令和3年度に〇△市で回収された1人あたりの1日のごみの量は960g。
- ・リサイクル率は、回収された全体のごみの量に対するリサイクルされた量の割合で計算できる。
- ・岡山県のリサイクル率の目標は33%。令和元年度の岡山県のリサイクル率は47都道府県中1位。

取材メモ2 10月20日 花子

〈ペットボトルのリサイクルについて〉

- ・回収された空のペットボトルは、運びやすいように「べール」という直方体の形におし固められる。
- ・〇△クリーンセンターでは、べールはくずれないようにぴったり重ねて積み上げている。
- ・べール1つの重さは約190kg。
- ・空の500mLのペットボトル1本の重さは30g。
- ・空の2Lのペットボトル1本の重さは50g。
- ・〇△クリーンセンターに持ちこまれる500mLのペットボトルの本数は、2Lのペットボトルの本数の5倍。
- ・べールは細かくくだかれて、製品の原料になる。



1つのべール

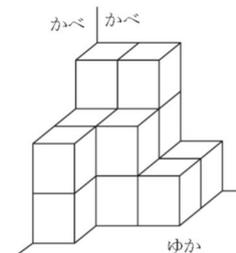


図3 べールが積み重ねられている様子

設問（１）

太郎：○△市では、リサイクルがさかんであると言われていたね。

花子：令和４年度は、岡山県のリサイクル率の目標を達成したいとも言われていたね。

（１） ○△市の令和３年度のリサイクル率は 30% でした。○△市が、岡山県のリサイクル率の目標と等しくなるには、１人あたり１日あと何 g のごみをリサイクルすればよかったですか。

（ア）設問のねらい

課題の解決に必要な情報を読み取り、百分率で表された割合と基準量から比較量を求め、考察する力をみる。

（イ）学習指導要領における関連の深い領域・内容

算数	第 5 学年	A 数と計算
		（３）小数の乗法，除法 ア（ア） 乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること。
		C 変化と関係
		（３）割合 ア（イ） 百分率を用いた表し方を理解し，割合などを求めること。

（ウ）応答率

（１）	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無 答
割合	40.5%	0.0%	52.8%	6.7%

（エ）正答例

1 人あたり 1 日あと 28.8 g

設問（２）

花子：たくさんのごみを焼きやくするのは大変な作業だね。

太郎：効率よく焼きやくするためには、どんなことが必要だったかな。

（２） ふたのない空き缶<sup>あかん</sup>の中に木を入れて燃やします。図１のように、側面の穴の位置だけがちがう２種類の空き缶を用意し、空き缶に入れる木の入れ方を変えるとき、木が最も勢いよく燃える組み合わせになるように、図１の①、②と、図２のア、イからそれぞれ１つずつ選びましょう。また、その組み合わせが最も勢いよく燃えると考えた理由を、「空気」という言葉を使って説明しましょう。

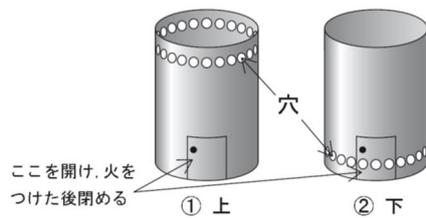


図１ 穴を開ける位置

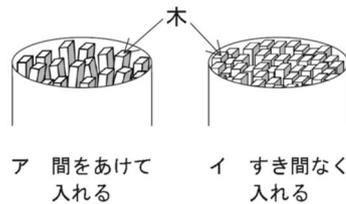


図２ 木の入れ方

（ア）設問のねらい

燃焼の仕組みや空気の性質についての知識を用いて課題の解決の方法を構想し、その内容を記述できるかをみる。

（イ）学習指導要領における関連の深い領域・内容

理科	第４学年	A 物質・エネルギー (2) 金属、水、空気と温度 ア（イ） 金属は熱せられた部分から順に温まるが、水や空気は熱せられた部分が移動して全体が温まること。
	第６学年	A 物質・エネルギー (1) 燃焼の仕組み ア（ア） 植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができること。 イ 燃焼の仕組みについて追及する中で、物が燃えたときの空気の変化について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

（ウ）応答率

（２）	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
割合	27.6%	47.4%	25.0%	0.1%

（エ）正答例

最も勢いよく燃える組み合わせ ② と ア

説明 あたためられた空気は上へ動くので、下から上への空気の出入りが多く、木に新しい空気がふれやすくなっているから。

設問 (3)

花子：大量のペットボトルが資源ごみとして運びこまれていたね。  
 太郎：積み上げられたすべてのバールには、おし固められた空のペットボトルが約8万本ふくまれているって言われていたけれど、そんなにあるようには見えなかったよ。  
 花子：メモにある情報をもとに、どのくらいの本数があるか確かめられないかな。  
 (3) 取材メモ2の図3は、バールが積まれている様子をスケッチしたもので、1つの直方体が1つのバールを表しています。バール1つの重さをすべて190kgとしたとき、図3のすべてのバールには、空の500mLと2Lのペットボトルをあわせて何本おし固められているか答えましょう。また、どのようにして求めたのかも説明しましょう。

(ア) 設問のねらい

身のまわりにある立体図形の量や重さを数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察し説明することができるかをみる。

(イ) 学習指導要領における関連の深い領域・内容

算数	第3学年	A 数と計算 (3) 乗法 ア(イ) 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。
	第4学年	A 数と計算 (3) 整数の除法 ア(イ) 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。 イ(ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。 B 図形 (2) 立方体、直方体などの立体図形 ア(ア) 立方体、直方体について知ること。
	第6学年	[数学的活動] (1) ウ 問題解決の過程や結果を、目的に応じて図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動

(ウ) 応答率

(3)	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
割合	9.5%	46.0%	31.9%	12.6%

(エ) 正答例

1つのバールにおし固められているペットボトルを、○△クリーンセンターに持ちこまれている2Lと500mLの空のペットボトルの本数の割合と同じと考え、2Lのペットボトル1本につき、500mLのペットボトルは5本あるため、これらを1セットとすると、この重さの合計は  $50 + 30 \times 5 = 200$  (g) となり、バール1つの重さが190kgであるから、 $190000 \div 200 = 950$  (セット) となる。  
 よって、バール1つに、2Lのペットボトルと500mLのペットボトルはそれぞれ  
 $950 \times 1 = 950$  (本)                       $950 \times 5 = 4750$  (本)                      入っていることが分かる。  
 図3には全部で  $2 + 5 + 7 = 14$  (個) のバールが積まれているため、全部で  $(950 + 4750) \times 14 = 79800$  (本) のペットボトルがおし固められていることになる。  
 (答) 空の500mLと2Lのペットボトルあわせて 79800 本

(2) 課題 2

次の (1) ~ (3) に答えましょう。

設問 (1)

(1) 図 1 は、ある日の夕方、西の空に見えた月の形です。また、図 2 は、教室の中で電灯の光をボールに当てて、その見え方から月の満ち欠けについて実験しているときの様子を天井から見たものです。観察する人から見てボールが図 1 の月の形に見えるのは、ボールを図 2 のア~クのどこにおいたときに近いか記号で答えましょう。



図 1 西の空に見えた月の形

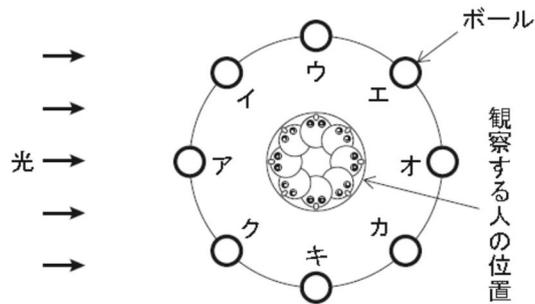


図 2 実験の様子

(ア) 設問のねらい

地球から見た太陽と月の位置関係によって月の形の見え方が変わることを理解しているかをみる。

(イ) 学習指導要領における関連の深い領域・内容

理科	第 6 学年	B 生命・地球
		(5) 月と太陽
		ア (ア) 月の輝いている側に太陽があること。また、月の形の見え方は、太陽と月との位置関係によって変わること。

(ウ) 応答率

(1)	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
割合	67.2%	0.0%	32.3%	0.5%

(エ) 正答例

ボールの位置 ク

設問（2）

（2） 図3のような、ふりこAとふりこBをつくりました。ふれはばを同じにして、2つのふりこをそれぞれふるとき、1往復する時間はどのようになりますか。次のア～ウから選び、記号で答えましょう。また、そのようになる理由を具体的な数値を使って説明しましょう。

- ア ふりこAの方が1往復する時間は短い。
- イ ふりこBの方が1往復する時間は短い。
- ウ どちらのふりこも1往復する時間は同じになる。

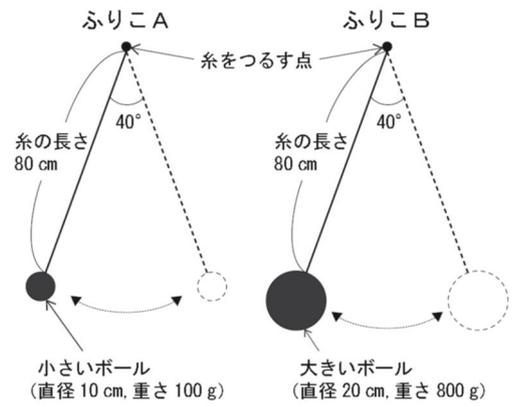


図3 2つのふりこ

（ア）設問のねらい

振り子の運動の規則性について、科学的な言葉や概念を使用して考察し、説明することができるかを見る。

（イ）学習指導要領における関連の深い領域・内容

理科	第5学年	A 物質・エネルギー (2) 振り子の運動 ア（ア）振り子が1往復する時間は、おもりの重さなどによっては変わらないが、振り子の長さによって変わること。
----	------	---

（ウ）応答率

（2）	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
割合	32.8%	18.3%	48.5%	0.4%

（エ）正答例

記号 ア  
説明 ふりこが1往復する時間は、ふりこの長さによって変わる。ふりこの長さは糸をつるす点からおもりの中心までの長さなので、ふりこAのふりこの長さが85cm、ふりこBが90cmとなり、ふりこAの方がふりこの長さが短いから。

設問 (3)

(3) ジュースの入ったコップに氷を入れ重さをはかると、はかりの表示は 500 g でした。そのまま室内にしばらく置いておくと、はかりの表示が変化していました。不思議に思った太郎さんは、時間とともに重さがどのように変化するかを調べるために氷水で実験することにしました。気温 27℃の室内で、5分ごとに図4のはかり方で変化した重さを記録し、グラフにまとめました。図5は、はかり始めてからの時間と変化した重さの関係を表したグラフです。変化した重さが図5のグラフのようになった理由を答えなさい。ただし、氷はとけて水になってもその重さは変わりません。

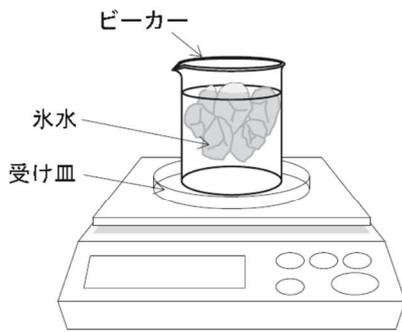


図4 重さのはかり方

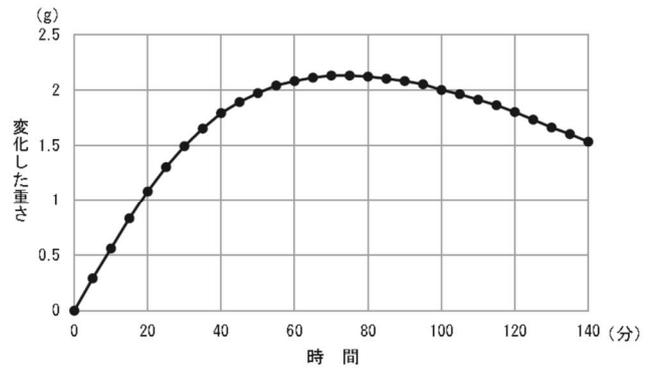


図5 はかり始めてからの時間と変化した重さの関係

(ア) 設問のねらい

空気中の水の様子についてデータを基に分析して考察し、その内容を記述できるかをみる。

(イ) 学習指導要領における関連の深い領域・内容

理科	第4学年	B 生命・地球
		(4) 天気の様子 ア (イ) 水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくこと。また、空気中の水蒸気は、結露して再び水になって現れることがあること。 イ 天気や自然界の水の様子について追及する中で、既習の内容や生活経験を基に、天気の様子や水の状態変化と気温や水の行方との関係について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。

(ウ) 応答率

(3)	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
割合	21.0%	38.9%	25.2%	15.0%

(エ) 正答例

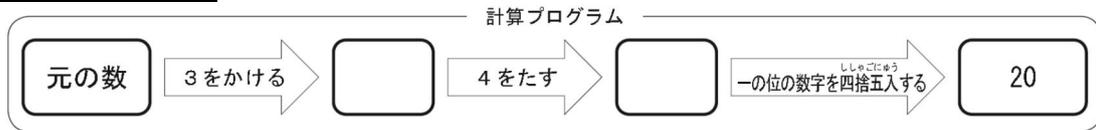
説明 変化した重さが増えているのは、空気中の水じょう気が氷水によって冷やされてビーカーの表面に水できとしてつくことが大きく関わり、変化した重さが減っているのは、水がじょう発し空気中に水じょう気として出ていくことが大きく関わっているから。

(3) 課題3

次の(1)～(3)に答えましょう。

設問(1)

(1) 次のような計算プログラムがあります。計算結果が20となるときの元の数にあてはまる整数を1つ答えましょう。



(ア) 設問のねらい

整数の演算や概数についての理解を基に、プログラミング的思考を用いて問題を解決する力をみる。

(イ) 学習指導要領における関連の深い領域・内容

算数	第4学年	A 数と計算 (2) 概数と四捨五入 ア(イ) 四捨五入について知ること。
----	------	---

(ウ) 応答率

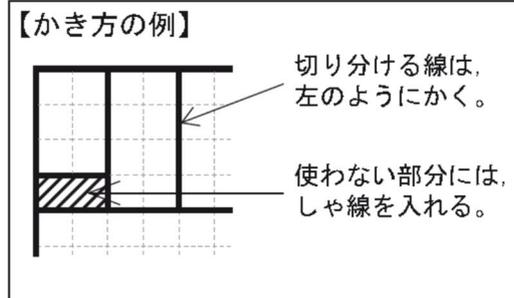
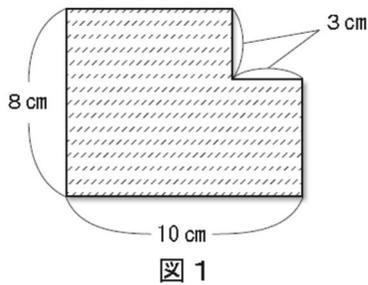
(1)	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
割合	82.7%	0.2%	8.4%	8.7%

(エ) 正答例

元の数にあてはまる整数 4

設問 (2)

(2) 図1のような、一部が欠けている木材があります。この木材を何枚かに切り分け、その中の5枚を使って、容積が $44\text{cm}^3$ 以上になるふたのない直方体の容器をつくらうと思います。このとき、できる容器について、【かき方の例】にしたがって切り分け方とその容積を1つ答えましょう。ただし、木材を切り分けるときには点線にそってしか切れず、木材の厚みは考えないものとします。



(ア) 設問のねらい

直方体を構成する要素に着目しながら、与えられている条件の中で求積することができるかをみる。

(イ) 学習指導要領における関連の深い領域・内容

算数	第5学年	B 図形
		(4) 立体図形の体積 ア (イ) 立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解すること。 イ (ア) 体積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考えるとともに、体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。

(ウ) 応答率

(2)	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
割合	29.2%	7.8%	50.9%	12.1%

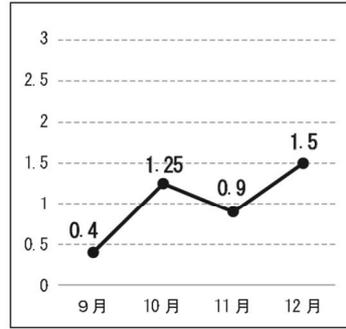
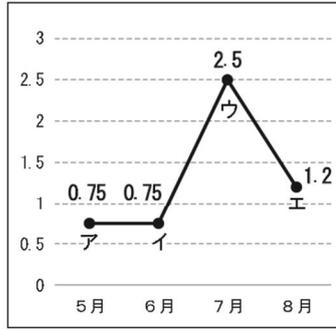
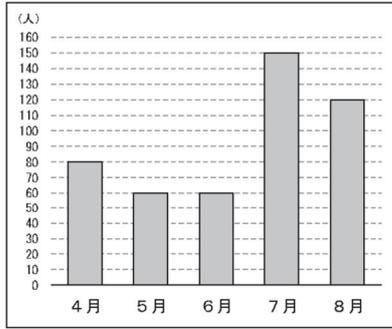
(エ) 正答例

切り分け方

できた容器の容積  $48\text{ cm}^3$

設問 (3)

(3) 太郎さんと花子さんは、4月から12月までの毎月の図書館を利用した人数を調べ、4月から8月までをグラフ1に表しました。次に、図書館を利用した人数の月ごとの割合を前の月をもとにして計算し、グラフ2とグラフ3を作成したところ、グラフ2にまちがいがあることに気づきました。グラフ2の点ア～エの中からまちがっている点をすべて選び、記号で答えましょう。また、その記号を選んだ理由を、言葉や式を使って説明しましょう。さらに、12月に図書館を利用した人数を答えましょう。



(ア) 設問のねらい

日常生活の問題を解決するために、目的に応じてグラフを読み取り、データの特徴や傾向を捉え考察し、その結果について根拠を明らかにして説明することができるかをみる。

(イ) 学習指導要領における関連の深い領域・内容

算数	第4学年	C 変化と関係 (2) 簡単な場合についての割合 ア (ア) 簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること。
	第6学年	D データの活用 (1) データの考察 ア (ウ) 目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知ること。

(ウ) 応答率

(3)	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
割合	26.7%	28.8%	34.1%	10.4%

(エ) 正答例

記号 イ, エ

説明 5月に図書館を利用した人数をもとにしたときの6月に図書館を利用した人数の割合は  $60 \div 60 = 1$  となる。7月に図書館を利用した人数をもとにしたときの8月に図書館を利用した人数の割合は  $120 \div 150 = 0.8$  となる。よって、間違えているのは点イと点エになる。

12月に図書館を利用した人数 81 人

## 2 適性検査Ⅱ

### 出題のねらい

#### ア 全般的なねらい

日常生活や社会的事象に関する文章や資料等を題材として、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」など、小学校等の教育において身に付けている総合的な力をみる。

#### イ 課題ごとのねらい

##### 課題 1

説明的な文章を読んで、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしているかをみる。また、叙述を基に内容の中心となる事柄を把握し、目的に応じて要約することができるかをみる。

##### 課題 2

示された課題に対し、理由や事例を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを文章に書くことができるかをみる。

##### 課題 3

貨物の輸送をテーマとした問題解決的な学習場面において、資料を読み取りながら、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力をみる。

### (1) 課題 1

次の文章は、文学作品（詩・物語）を読む意味について書かれている『国語をめぐる冒険』の一部です。この文章を読んで、(1) から (3) に答えましょう。

### 設問 (1)

(1)        「七変化」は二字熟語の上に一字の語を加えた漢字三字の熟語です。これと同じ構成の熟語のうち、一字の語に漢数字を使わない漢字三字の熟語を二つ書きましょう。ただし、「小学校」と「小道具」や、「小学校」と「中学校」のように、同じ語を二回使ってはいけません。また、「漢」「数字」「小」「学校」「道具」「中」も使ってはいけません。

### (ア) 設問のねらい

語句の構成について理解し、語彙を豊かにしているかをみる。

### (イ) 学習指導要領における関連の深い領域・内容

国語	第5学年	[知識及び技能] (1) オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。
	及び 第6学年	

### (ウ) 応答率

(1)	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
割合	69.0%	21.3%	8.3%	1.3%

### (エ) 正答例

新体操、少人数

設問（２）

（２） —— 線部ア「でも成長もない」とありますが、「コンフォート・ゾーン」で人が成長しないのはなぜですか。書き出しの言葉に続けて、十五字以内で説明しましょう。（ 、や 。や「 」なども一字に数えます。）

快適で慣れた環境では、

（ア）設問のねらい

文章を読み、語や文を基に必要な情報を見付けることができるかをみる。

（イ）学習指導要領における関連の深い領域・内容

国語	第5学年	〔思考力，判断力，表現力等〕 C 読むこと (1) ア 事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
	及び 第6学年	

（ウ）応答率

（２）	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無 答
割合	27.9%	46.9%	24.0%	1.2%

（エ）正 答 例

人は背伸びしようとしなから。（15字）

設問（3）

（3） この文章を読んだ太郎さんたちは、グループで話し合っています。次は、そのときの【話し合いの様子の一部】です。これを読んで、あなたが花子さんならどのように話しますか。空らんA、B、Cにその内容を書きましょう。ただし、空らんAは二十字以内、空らんBは二十五字以内、空らんCは四十字以内で書きましょう。（ 、や 。や「 」なども一字に数えます。）

【話し合いの様子の一部】

太郎 —— 線部イ「隠された宝物には出会えない」とあるけれど、実際にはどうすれば、出会うことができるのかな。

次郎 「はじめての表現の手触りを確かめたり」や、「あたりまえの言葉の底をのぞいたり」と書かれているけれど、どういうことなのかな。

花子 今まで使ったことのない言葉を使ってみたりすることや、ことだと思うよ。

太郎 そうだね。さらに、—— 線部ウ「文学は実学である」と書いてあるけれど、「実学」ってどういう意味かな。

次郎 辞書を引いてみると、実学とは「社会生活で実際に役立つ学問」と書いてあるよ。

太郎 なぜ、文学は社会生活の中で役に立つのかな。

花子 その理由は、文章から読み取れるよ。文学作品を読むことで、に気づかされて、現実では出会えないことを深く体験できるよ。そして、ことで、先の見えない世界を乗り越えていけるのだと思うよ。

太郎 そういうことか。だから、ぼくたちはこれからも色々な文学作品を読んでいく必要があるね。

（ア）設問のねらい

叙述を基に内容の中心となる事柄を把握し、目的に応じて中心となる語や文を見つけて要約することができるかをみる。

（イ）学習指導要領における関連の深い領域・内容

国語	第5学年	〔思考力、判断力、表現力等〕 C 読むこと (1) ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
	及び 第6学年	

（ウ）応答率

(3)		正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
A	割合	14.9%	40.3%	43.8%	1.0%
B	割合	13.5%	39.3%	43.0%	4.2%
C	割合	14.8%	62.7%	16.4%	6.2%

（エ）正答例

- A 知っている言葉でもさらに深く調べたりする（20字）
- B 主人公に自分のどこかが重なり、ほかの人が考えること（25字）
- C 言葉を味方にして、その時々状況にふさわしい答えを探しながら進んでいく（35字）

## (2) 課題2

### 設問

あなたがこれまでに受けた教科の授業の中で、実際の生活場面で役立った学習内容は何ですか。また、それはどのように役立ちましたか。生活場面を一つ取り上げ、次の条件に合わせて具体的に書きましよう。

〈条件〉

- ここでいう教科とは、国語・社会・算数・理科・音楽・図画工作・家庭・体育・外国語・道徳を指します。全ての教科を取り上げる必要はありません。
- 二百字以内で書きましよう。(、や。や「」なども一字に数えます。)
- マス目から書き、とちゅうで行を変えないで、続けて書きましよう。

### (ア) 設問のねらい

示された課題に対し、理由や事例を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを文章に書くことができるかをみる。

### (イ) 学習指導要領における関連の深い領域・内容

国語	第5学年 及び 第6学年	〔思考力、判断力、表現力等〕B 書くこと (1) ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。
----	--------------------	--

### (ウ) 応答率

	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
割合	15.2%	75.5%	8.3%	1.0%

### (エ) 評価基準

課題として示された内容について、生活場面で役立った学習内容と実際に役立った生活場面が具体的に書かれてあり、筋道を立てて200字以内で述べているものを評価する。

(3) 課題3

太郎さんたちは、食料生産や工業生産について学んだことから、国内における貨物の輸送について調べ学習を行っています。あとの会話文を読んで、(1)～(3)に答えましょう。

設問(1)

太郎：貨物の輸送手段別の割合を示している資料1を見つけたよ。輸送トン数は、輸送した貨物の重量を表しているよ。でも、輸送トンキロとは何だろう。

花子：調べてみると、輸送トンキロは、貨物の輸送の規模を表す目安として使われていて、資料2に示した式で計算したものだよ。

次郎：輸送トン数と輸送トンキロの割合を比較すると、ちがいがああるね。

(1) 輸送トン数と輸送トンキロの割合を比較すると、トラックと船の割合が大きくなりがちなのはなぜですか。その理由として考えられることを船による輸送に注目して書きましょう。

資料1 貨物の輸送手段別の割合(令和元年度)

輸送トン数			
トラック	鉄道	船	飛行機
91.8%	0.9%	7.2%	0.0%

輸送トンキロ			
トラック	鉄道	船	飛行機
52.9%	4.9%	42.0%	0.2%

(国土交通省資料から作成)

資料2 輸送トンキロの計算式

輸送した貨物の重量(t) × 輸送したきより(km)
----------------------------

(ア) 設問のねらい

統計資料の特性に留意して、適切に情報を読み取ることができるかをみる。

(イ) 学習指導要領における関連の深い領域・内容

社会	第5学年	<p>(2) ア(イ) 食糧生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食糧生産を支えていることを理解すること。</p> <p>(3) ア(ウ) 貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解すること。</p>
----	------	--

(ウ) 応答率

(1)	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
割合	58.1%	2.9%	36.3%	2.7%

(エ) 正答例

船はトラックと比べて輸送したきよりが長いと考えられる。

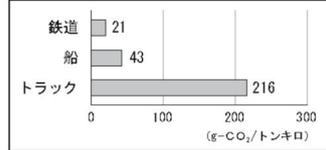
設問（2）

次郎：日本の1年間の平均気温が100年前より1℃以上高くなっているというニュースを見たよ。未来のために、地球温暖化対策の1つとして貨物の輸送を工夫できないかな。

太郎：貨物の輸送手段別の二酸化炭素のはい出量を示した資料3から、二酸化炭素のはい出量を減らすことが考えられそうだね。

花子：資料3に加えて、トラックのハイブリッド車の台数の変化がわかる資料4も使って考えてみようよ。

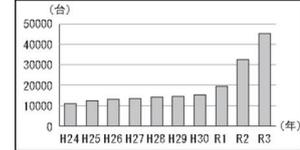
資料3 貨物の輸送手段別の二酸化炭素のはい出量(令和2年度)



※g-CO<sub>2</sub>/トンキロは、貨物1tを1km輸送するときにはい出する二酸化炭素の量。

(国土交通省資料から作成)

資料4 トラックのハイブリッド車の台数



※H:平成 R:令和  
※トラックのハイブリッド車は、主に軽油で動くエンジンと電力で動くモーターを組み合わせで走行する。

(自動車検査登録情報協会資料から作成)

(2) 二酸化炭素のはい出量を減らすためには、貨物の輸送についてどのような工夫が考えられますか。資料3, 4のそれぞれから読み取ったことを取り上げながら、あなたの考えを書きましょう。

(ア) 設問のねらい

産業と環境との関連を多角的に考える力、社会に見られる課題の解決のためにできることを選択・判断する力をみる。

(イ) 学習指導要領における関連の深い領域・内容

社会	第5学年	<p>(2) イ (イ) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。</p> <p>(3) イ (ウ) 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現すること。</p>
----	------	--

(ウ) 応答率

(2)	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
割合	37.8%	60.5%	0.9%	0.8%

(エ) 正答例

トラックは二酸化炭素のはい出量が船や鉄道よりも多く、比か的<sup>ひかてき</sup>二酸化炭素のはい出量が少ないハイブリッド車が増えていることから、今後も続けてハイブリッド車を増やしていくことが考えられる。

設問 (3)

太郎：身近な宅配便には、トラックが多く使われているね。

花子：宅配便は、家まで届けてもらえるから便利だけど、トラックの走行きよりは長くなるね。

次郎：過そ化が進むE地区では、利用者が減少した路線バスの座席の一部を荷台にして、宅配便の荷物を輸送する計画があると聞いたよ。

太郎：トラックの走行きよりを減らすには、よい考えだね。

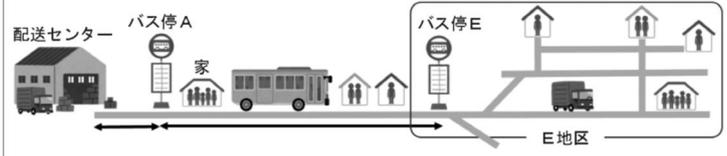
資料5 E地区一帯の宅配便にかかわる情報をまとめたもの

【現在の配達方法など】

午前 9:00 配送センターを出発し、午前便の配達を開始する  
 午後 12:30 午前便の配達を終えて、配送センターにもどる  
 ※午後便の荷物が、正午に配送センターに届くため  
 午後 2:00 荷物をのせて、午後便の配達を開始する  
 午後 5:10 午後便の配達を終えて、配送センターにもどる  
 ○配達地域 E地区までの道中にある家やE地区の家  
 ○配達に使うトラックの台数 1台

バス停E行き  
路線バス時刻表

バス停A発	バス停E着
午前 10:30	午前 11:00
午後 1:20	午後 1:50
午後 6:10	午後 6:40



(3) 資料5は、E地区一帯の宅配便にかかわる情報をまとめたものです。現在、トラックは配送センターとE地区の間を1日に2往復して配達を行っていますが、午後便の荷物の輸送に路線バスを活用してトラックの走行きよりを減らすには、どうしたらよいと考えますか。資料5をもとに、次の条件をふまえて、具体的な配達方法を書きましょう。

〈条件〉○ 路線バスは、バス停Aを始発、バス停Eを終着とし、バス停の位置とバスの出発時刻は変えられないものとします。

○ トラックが荷物を届ける時間帯は、午前便(9:00～12:00)、または午後便(2:00～5:00)のどちらかに指定されているものとします。

○ 配送センターからバス停Aの間は、E地区一帯の配達に使うトラックとは別のトラックで運ぶことができます。

(ア) 設問のねらい

社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて考えたことを文章で記述することができるかをみる。

(イ) 学習指導要領における関連の深い領域・内容

社会	第5学年	(2) イ (イ) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。 (3) イ (ウ) 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現すること。
----	------	---

(ウ) 応答率

(3)	正答としたもの	部分点を与えたもの	誤答としたもの	無答
割合	3.0%	21.9%	54.2%	21.0%

(エ) 正答例

午前便の荷物を配達したトラックはバス停Eで待つ。午後便の荷物は、別のトラックで配送センターからバス停Aに運んだ後、午後1:20発のバスでバス停Aからバス停Eに運び、待っているトラックにのせかえる。その後、トラックでE地区の家と配送センターまでの道中にある家に配達を行い、配送センターまでもどる。

